

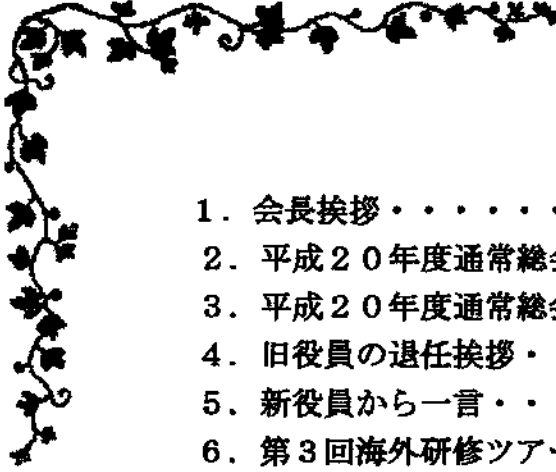
SLA通信

第42号


〒460-0024

名古屋市中区正木1-2-8 互助会4F

(財)シニアルネサンス財団内



1. 会長挨拶	2
2. 平成20年度通常総会報告	3
3. 平成20年度通常総会 講演会	4
4. 旧役員の退任挨拶	5
5. 新役員から一言	5
6. 第3回海外研修ツアーベトナム・カンボジア	7
7. 4回SLAのつどい 全体研修会	10
8. 2009年新年会	11
9. 全国一斉電話相談	12
10. カレンダー	13
11. 地域部会便り	14
12. 投稿	16



新年度挨拶

中部シニアライフアドバイザー協会

会長 今泉治子



さわやかな緑に心洗われる季節になりました。いつも、中部シニアライフアドバイザー協会の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

今年度も12名の役員が力を合わせて、会員の皆様が有意義に感じられる協会の運営に努めますので、今まで同様のご支援を、よろしくお願い申し上げます。

さて、先日、久しぶりに上前津の「高砂殿本店」へ行く機会がありました。15年前、SLA養成講座を受講するための面接試験が行われた会場です。2期生の試験日はあいにく雪の降る寒い日でしたが、あの時、何の気もなく上り下りしたわずか15,6段の入口に通じる階段が、その日はなんとも高く感じられ、一段一段ゆっくり慎重に上り下りしました。15年の間に、知らず知らずのうちに低下した体力に、思わず心の中で小さなため息をつきました。

今年度も、私自身を含め、会員の高齢化が気になる1年であり、何らかの対応を迫られる年ともなりますが、協会が、私たち会員にとって魅力ある場所となりますように、尽力をいたしたいと思えます。

協会は、会員の活性化を望む声が高まった4年前、委員会を立ち上げて以来、失せかけた活力を取り戻すべく努力を重ねてまいりました。具体的には、集まろうという意思こそが活動の基本であることを認識し、“つどい”をテーマにして、会員の皆様に、協会の行事への積極的な参加を呼びかけてきました。その結果、活性化を願う会員の方々の心意気に支えられ、徐々に活力が戻ってきたような気がいたします。

今年度は、中部シニアライフアドバイザー協会の今あるパワーを把握し、そのことを踏まえたうえで、私たちの中部シニアライフアドバイザー協会がどのように進むべきか、その道筋について、会員の皆様とともに考え、しっかり議論していく年にしたいと考えています。

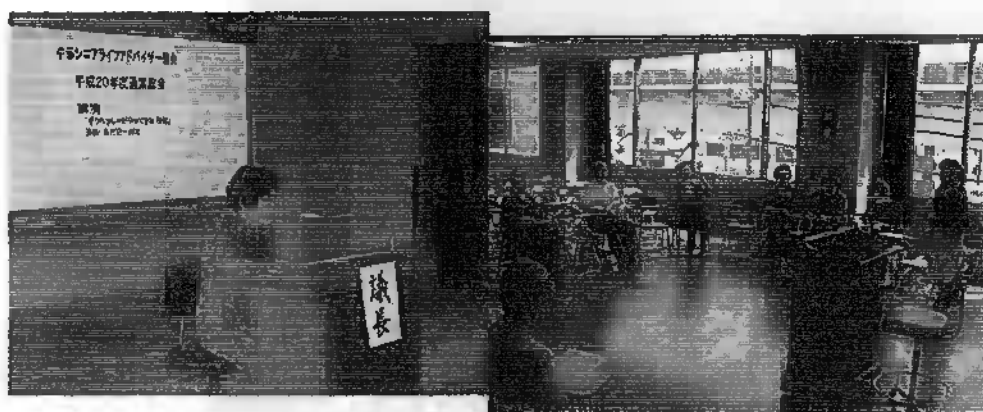
会員の皆様には、今年度も“つどい”へのご参加をお願いすると共に、忌憚のないご意見やご提案をお寄せいただきたく、よろしくお願い申し上げます。



平成20年度通常総会報告

1. 実施日 平成21年4月18日(土)
2. 開催場所 名古屋市女性会館3F
3. 会員数 会員数65名 出席者19名 委任状29名
4. 議長 浅野澄子
5. 議事記録 加藤恭子 森北美美
6. 議事

平成20年度活動報告の件	承認
平成20年度会計報告の件	承認
平成20年度会計監査報告の件	承認
平成21年度活動計画の件	承認
平成21年度予算の件	承認
平成21年度役員	承認



21年度役員役割分担表

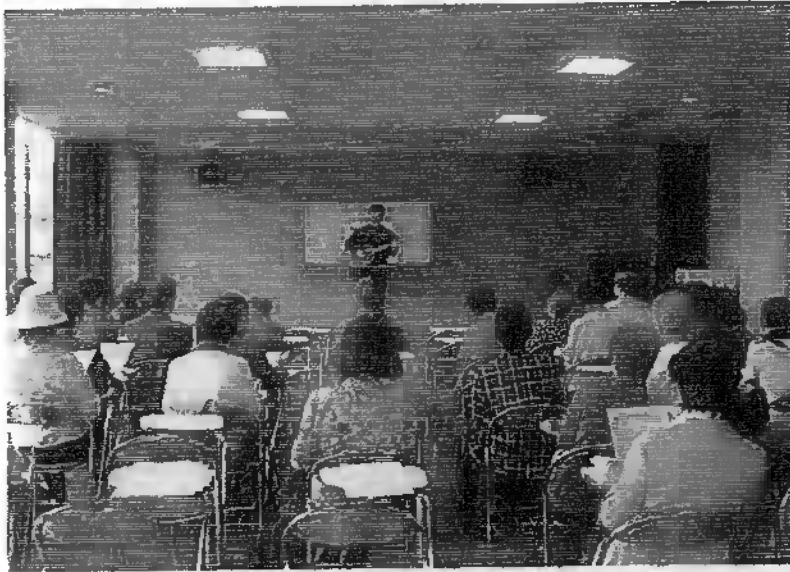
幹事	会長	今泉 治子		
	副会長	木村 利行	中島 衣代	
	総務	小幡 淳子	武藤まさよ	加藤 厚子
	研修	長谷川浩子	木村 利行	
	電話相談	中島 衣代	武藤まさよ	
	広報	中山 久雄	小澤 節子	加藤 厚子
	会計	黒須由紀子		
監査		井出 勝男	杉浦 玲子	

平成20年度通常総会 講演会

象列車がやってきた・秘話

講師 藤村記一郎氏

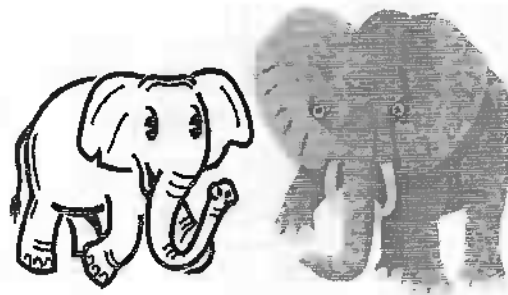
会員及び、会員以外の多数の参加者で会場が埋まった講演会は、盛大な拍手のなか、作曲家藤村記一郎氏の自己紹介から始まりました。「ぞうれっしゃがやってきた」のオープニング曲から始まり、叙情歌、最近の「千の風になって」と盛り上がりました。久しぶりに声を張り上げて歌い、ストレスの解消になったのではないのでしょうか。



「ゾウ列車」で戦後の人々に勇気を運んだ動物園

名古屋市の緑豊かなエリア、東山。市民が憩う森に、「東山動植物園」は広がっています。その歴史は古く、明治期に動物商の今泉七五郎が開設した動物園を前身とし、昭和12年に東山動物園として開園しました。

「東洋一の動物園」といわれたこの動物園。第2次世界大戦中、猛獣処分命令が出されました。国内で唯一生き延びたのが東山動物園の2頭のアジア象でした。戦後「象に会いたい」という子供たちの願いに応じて、園は国鉄と、関東や近畿一円から多くの子供たちを迎え入れた「象列車」を運転したのです。(東山動植物園・愛知県名古屋市)



旧役員の退任挨拶

幹事お疲れ様でした。

荒川 輝子

新緑の鮮やかな頃となりました。中部SLA協会21年度の活動も始まりどんな企画のお知らせが届くかしらと心待ちにしている自分がいます。昨年度は幹事会の末端を汚しながら様々な経験をさせていただきました。今泉会長・木村・中島両副会長を軸とする幹事会の〈SLAの活性化・活動〉に対する熱い思いに心動かされ、躓きながらも一緒に活動できました事は私にとりまして他では得がたい充実した時間だったと感じています。このたび私の都合により退任させていただくことになりました。一年間暖かくお導きくださいました皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

加藤愛佐子

会員数の減少は仕方のないことと思いますが・・・SLAになって得られた大切な皆様にイベント等でお目にかかれることを楽しみにしています。

新役員から一言

木村 利行

SLAのつどいを中心に仲間のコミュニケーションも活発になってきました。今年も元気で楽しい活動が出来るよう仲間のパワーを結集しましょう。

中島 衣代

今年は協会創立15周年となります。私自身今までの事を振り返りますと、中部SLA協会に在席し何かと触発されたり、良い人間関係が生まれたりと得た物が沢山有り感謝しております。しかし15年の歳月は協会員それぞれの生活環境を始め求めるもの、アドバイザーとして活動範囲、内容など大きく変化している事を感じます。(健康、引退、脱会)活性化委員会も誕生して5年、会員の意向も取り入れ機能してきたと思います。今年は今一度会員全体に協会の今後について大いに語り合い、指針を問う時かと思ひ幹事を続けさせていただきます。

小幡 淳子

人との出会いを大切に、そして集う楽しさを実感できればと、再び幹事を務めることになりました。互いを助け合い、認め合い、笑いの絶えない明るい“輪”を願って、SLA活動を楽しみたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

武藤 まさよ

引き続き幹事を引き受けることになりました。毎回微力を反省していますが、少しでもお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします！

加藤 厚子

SLAに在席して10余年。当時からすると会員数も今では減少し60余名でしょうか・・・15年の年月を感じます。それぞれ本音で語り合える会・楽しい会になるようにと思っています。

長谷川浩子

「ひらめき」の大切さについて、茂木健一郎氏が説いておられます。ノーベル賞級の「大きなひらめき」から「小さなひらめき」までありますが、日常生活の中での「小さなひらめき」も私たちの生活を変え、豊かな生活・充実した人生を送るうえで、とても大切であるとのこと。 「ひらめき」を感じる時、快楽を司る脳の組織は活性化することが証明されているそうです。ただし、「ひらめき」は天啓とか突然（無から有）ではなく、多くの記憶（学習）の集積のうえにひらめくとのことに、私は深く納得するものがありました。さて、魅力あるSLA活動について、全会員の「ひらめき脳」が活躍することを期待しております。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

中山 久雄

平成21年度中部SLA協会活動計画にそって幹事としてお手伝いさせて頂くことになりました。まだまだ未熟者ですが、皆様のお力を拝借して協会の発展に少しでもお役にたてればと思います。どうかよろしくお願ひします。

小澤 節子

迅速、丁寧、正確、楽しさ等、どうしたら表現できるのかと広報としての難しさを味わっています。今年度は、発行回数を増やそうという意見もあり、戦々恐々としています。会員の皆様の暖かいお力添えを、よろしくお願ひいたします。

黒須由紀子

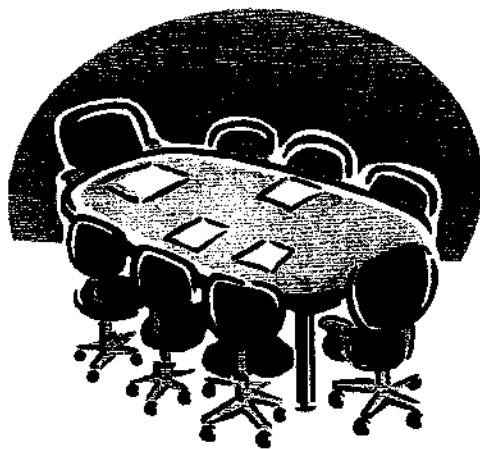
会計を担当させていただきます。会員減少（加齢など）に伴う財政難どう乗りきるかが課題です。皆様のご協力をいただきながら、今年もSLA活動からどんな感動が得られるか・楽しみにして、ひたむきに前を見て歩み続けます。

井出 勝男

当初から参加していたのですが、転勤等で途中抜けました。昨年退職いたしましたので、今後はよろしくお願ひいたします。

杉浦 玲子

SLA新年度が発足しました。今泉会長年度も4年目となります。役員も安定し、事業が継続でき苦勞をしながらも成果も上がって参りました。監査役として見守る楽しさを感じております。催しに参加し共に喜びたいと思います。



第3回海外研修ツアーベトナム・カンボジア

2008年12月4日(水)～9日(火)

今泉 治子



第3回海外研修ツアーは、中部国際空港からベトナム・ハノイへの直行便が2008年8月に就航したのをきっかけにして、「ベトナム」と隣国「カンボジア」へ行きました。総勢8名、初参加の方もいましたが、いつものチームワークの良さで、お互いに励ましあい、いたわり合いつつ、笑いの絶えない旅になりました。青く澄わたった海、抱かれているような柔らかい陽光…そして、暖かい土地の人々…また、それとは全く対照的な力強いエネルギー…ゆっくりと流れる時間のなかで、多くを感じ、発見し、はたまた癒される時間を過ごしました。

1日目

杉浦 玲子

私たちの世代は、第二次世界戦争を経験し、その後のアジアの国々の独立運動の足跡は新聞、ラジオ、テレビの報道を通じて、現代史の知識として記憶にとどまっております。

特にベトナムは、アメリカが関与した後は泥沼の戦場と化し、多くの犠牲者を出し、枯葉剤による、ドク、ベトナムの姿は戦争の痛ましさを感ぜさせられました。

セントレアからベトナムへの直行便が就航したとのニュースを聞いた時、中部にとって経済発展のパートナーとしての発展をとげている実情も視たいと思いました。ハノイ空港で現地ガイドのバウさんに出迎えていただきました。ベトナムで日本語を学び、北海道で9ヶ月働いた経験もあるそうで、ユーモアもあり日本語がとても堪能です。ベトナムについての知識のレクチャーを受けながら、専用車で、世界遺産のハロー湾のホテルに向かいました。

空港周辺は、広大なインターチェンジの道路網の工事が進んでいます。走っている道路は日本からの援助で作られたとのことでした。乗用車はまだ少なく、3、4人乗りのバイクが、夫婦子供を乗せ走っています。田を埋め立て、三井物産がホンダ、スズキ、キャノン、佐川急便等日本の企業を誘致しています。両側に広がる水田は二毛作、三毛作が終わり、農耕牛が草を食べています。やがて耕運機に取って代わるでしょう。

中国、フランス、日本、フランス、とその後アメリカ進入後は南北に国が分断され、1975年ホーチミンにより、ハノイを首都とする社会主義共和国が成立した歴史が、私の頭の中で整理されました。

戦争終結後に生まれた若者30歳以下が50%を超え、若者があふれております。女性は手先が器用で働き者です。男性は道路でしゃがみこんであまり働いておりません。社会主義国はどこも経済発展に遅れを取り、市場原理を取り入れた結果、活気が出てきた反面、農村との格差もあり市場経済を育てるのは難しいとバウさんはつぶやきました。工場の退社時間と重なり、自転車、バイク、トラックの氾濫する道路を縫って、ハロー湾を一望に見渡せる素敵なホテルに到着しました。

2日目

中野 絃子

2日目の朝は、ホテルNOVOTELを出発し、バスでハロン湾クルーズの港へ。世界遺産にも登録されているハ

ロン湾、海面から突き出した奇岩が静かな水面に映し出されて、幻想的な風景が広がり、貸し切りの船に乗って、うっとり見とれてしまいました。それから、大きな鍾乳洞のある島に寄り、石段を100段ほど登ったところの不思議な世界を見学。帰りの船の中では、シーフードのおいしい昼食をワイワイ談笑しながら満喫しました。午後は、アンナン陶器のバッチャン村に行きました。陶器の店がずっと並んでいるところの一軒に寄り、全部人の手で作られ、絵付けをされているところを見せていただきました。ベトナムの学校は、半日制なので、空いた時間に小さいときから訓練を受けていて、若者でも熟練者になれるのだと聞きました。私たちは、その店で、壺や、お皿、スプーンなどアンナンプルーや朱色と緑のトンボの図柄など、ゆっくりと品定めをして、思い思いの買い物を楽しむことができました。その後は、1000年以上の歴史を持つベトナムの伝統芸術、世界で唯一の水上人形劇を見に行きました。一番前列の良い席で見物ができました。舞台の左側に学士たちがいて、生演奏で声高らかに歌を歌ってくれました。水の上の人形たちの動きもシャープでとても面白かったです。『ベトナム・カンボジア世界遺産のたび』は、前から一度行ってみたいと思っていました。SLAの皆様には、大変お世話になりましたが、参加させていただいて本当に良かったと感謝しています。

3日目

黒須 由紀子

高齢者施設訪問の朝を迎えた。期待からか皆の表情も昨日までの旅行気分から一変、緊張感が漂う。ハノイの朝の光景を眺めながら乗車すること30分、民間の高齢者施設「NHA TUOI VANG (金の歳)」に到着。建物は、間口の狭い4階建てのエレベーターの無い小さなものだった。リン女史の出迎えを受け中に入る。清潔で整理整頓され、運営に携わる方々の熱意が伝わってきた。ビデオを視聴し女史の話を拝聴する。国立老人ホームと半官半民の施設が各1箇所あるが、民間ではここが第1号施設だそうで、施設開設のきっかけや開設に至るまでの苦勞、運営上の諸問題、現在の心境など伺う。献身的に立ち向かう先駆者・リン女史の姿に神々しさを覚えた。ベトナムは30歳以下が半数以上を占め、40歳以上は高齢者とされる。日本でいう老人の数は少ない。また家族結合意識が強い国民性や宗教観から、両親など年老いたものは家族でみるのが基本的な感覚とされ、こうした施設は無いに等しかった。国からの援助は皆無とのこと。国の貧しさ、ベトナム戦争など障害者福祉に力を注がねばならぬ(?)行政事情、いろいろ想像してみるものの、国家財政では如何ともし難いこうした施設を、私財を投じて運営されている情熱が、その後の施設内見学からも伝わってきて感動した。私たちは、寸志ではあるが中部SLA協会として寄付をさせていただいたことを、ここに報告いたします。ベトナム人と日本人、言葉は通じなくともお互いが理解しあえるひとときであった。次にベトナムの英雄 ホー・チ・ミンの廟を見学した。南北戦争、枯葉剤、アメリカの弾圧、ホー・チ・ミンの存在など歴史も暮らしも断片的だった私のベトナム認識を変えることができた。そして、ベトナムは確実に立ち上がりつつあることも認識できた3日間だった。



4日目

浅野 澄子

少々日本が恋しくなってきました。朝、専用車で迎えられ、アンコール遺跡観光へと出発です。気候は夏日、市民ハーフマラソンが早朝に開催され、人出も多くにぎやかでした。

1. アンコールトムの遺跡に到着。遺跡を目前にして石面の彫刻のすばらしさに驚嘆しました。仇敵チャンバの脅威を取り除いた「救国英雄」ジャヤヴァルマン7世によって、12世紀末頃建設されたもの。ジャヤヴァルマン7世は歴代の王の中では、例外的に大乘仏教を信奉した王として知られています。仏教を信仰しながらも従来のクメール的宇宙観も踏襲されていたとのこと。
2. 午後からは、アンコールワット遺跡へ12世紀の前半に30年余りの年月をかけて建設されたもの。スーリャヴァルマン2世がヒンズー教の神ヴィシュヌに捧げた寺院です。クメール語でアンコールは「都」ワットは「寺院」を意味するとのこと。遺跡の中でアンコールワットだけが西側を向いているのは国王の墳墓としての役割を兼ね備えるためというのが定説となっています。単一遺跡としては世界でも有数の規模の石造建築で建築技術は世界屈指のものといわれています。
3. 夕刻のプノンバケンから夕日観賞。アンコールワットから北へ1km程に位置する75mの険しい丘（山）を徒歩で登り、その頂上からアンコールの全景を見渡し、太陽が沈むのを観賞。夕日のすばらしい眺めにうっとりしました。山道はすぐに暗くなり、急いで麓まで降りました。夕食の時間にディナーショーを観賞。民族的な踊りのようでした。時間の都合で途中で退場、少し心残りでしたがホテルへと帰路に着きました。今日は歩き疲れた感じですが楽しい1日でした。

5日目

清水 博子

昨日のハードな見学の疲れもなく、元気に8時30分ホテルを出発。37キロ離れた「パンチアイスレイ」に到着。寺院は「女の砦」という祠堂に刻まれたデヴァターの彫像は、東洋のモナリザと評されているほど美しい。昼食は日本食「銀河」で幕の内定食でした。午後は「タブロム」遺跡に、入口には7人で奏でる楽団が演奏していました。地雷で足をなくした人たちでした。戦争の跡が悲しく残ります。この寺院は70%が倒壊しています。境内は、巨大な樹、スポアンが太い根を張っています。建物はかなり崩落して部分的にしか残っていないところもあります。夕方便で、ハノイに向かうまで時間があるとガイドさんの計らいで、東南アジアで最大の湖トンレサップ湖に、雨季には川から大量の水が流れ込み、水位も上昇、周辺の森林や、田畑は水に浸かってしまう。この広い湖を、遊覧船でめぐりました。テレビで見た水上家屋の集落です。湖を後にして、マーケットで買い物。夕食をラーメン店で食べ、シェムリアップから、ハノイで乗り継ぎ、予定時間通り、翌朝6時30分全員元気で中部空港に帰りました。この旅行では、7人の方に支えていただき、楽しい旅ができましたことが嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。



第4回SLAのつどい 全体研修会

日 時 (1) 平成21年1月21日 (水) 10:00~12:00 参加者22名
(2) 平成21年2月18日 (水) 13:30~15:30 参加者15名
(3) 平成21年3月18日 (水) 13:30~15:30 参加者16名

場 所 なごやボランティア・NPOセンター 集会室

テ ー マ 遺産・相続

テキスト 財産トラブル解決なんでも事典 石原豊昭著 自由国民社

2008年秋・全国一斉電話相談「高齢・シニアの安心110番」実施後相談員を中心に反省会を開きました。その際の意見交換に端を発し今回の全体研修会へと繋がりました。参加者が相互に音読をして疑問点などを話し合う形式で行いました。

3回のつどいでは時間不足でテキストを全部終了できませんでした。最終研修会後のアンケートでも終了まで継続しようとお声が多く21年度へと引き継がれる事に決まりました。

皆さまのご参加をお待ちしています。



今年度の全体研修会の日程が決まりました



昨年度3回の研修会の続きをいたします。ぜひご参加ください。

日 時 第1回 6月17日 (水) 14:00~16:00

第2回 7月15日 (水) 14:00~16:00

会 場 なごやボランティア・NPOセンター・集会室

テ ー マ 遺産・相続

テキスト 財産相続トラブル解決なんでも事典 石原豊昭著 自由国民社

2009年新年会



会長の開会の挨拶、桂川豊明さんの乾杯で始まった宴は和気藹々と進行しました。祝い膳は和食をメインに多くもなし少なくもなしの、ほどよい料理で座を和ませてくれました。宴もたけなわとなり、一年を振り返っての思い、SLAのこれからの抱負など出席者のスピーチに聞き入りました。今年も、健康で実り豊かな人生となるようお互い切磋琢磨することを誓い合いました。

と き 1月30日(金)11:30~14:30

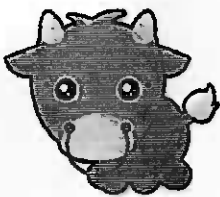
と ころ ナチュラルホテルエルセラーン

参加者 29名

昼 食 新年祝い膳

スピーチ 参加者による近況報告

記念撮影



全国一斉電話相談 シニアの悩み 110 番 実施報告

2009年3月28日(土)・3月29日(日)AM10:00～PM5:00

シニア電話相談室にて

3月28・29日、全国一斉電話相談「シニアの悩み110番」が

全国7協会～北海道・東北・関東・中部・関西・中国（含東中国）・九州～で開かれました。

午前10時の受付とともに電話が鳴り、

夫と二人暮らしの70代の女性から「一緒に入れる施設はあるか」や

「定年後のつぎの仕事の探し方」に悩む相談が寄せられました。

2日間の相談内容

健康	介護 福祉	成年 後見	年金	経済	遺言 相続	住居	家族 夫婦	人間 関係	生き方	仕事	その他
34	28	9	16	20	63	21	45	11	11	4	23



相談員：青柳よ志子・浅野澄子・鈴木八重子・竹内くに子・保坂正子・山下可子

運営：幹事会

2009年カレンダー発行

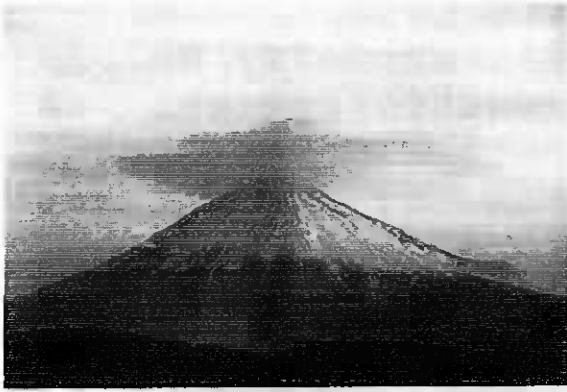
掲載写真は会員の応募作品・テーマは旅

2010年カレンダー写真募集中 / テーマ

風景 (季節感のあるもの) ・ 問合せ先 : 090-3481-1118 (木村利行)

1・2月

静岡 富士山 撮影 中島衣代



3・4月

名古屋大江川緑地公園 撮影 木村利行



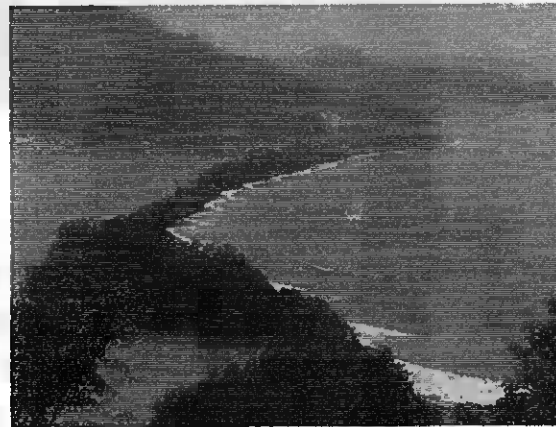
5・6月

名古屋 ノリタケの森 撮影 中野絃子



7・8月

京都 天の橋立 撮影 中山久雄



9・10月

英国 バイブリー 撮影 今泉治子



11・12月

奈良 談山神社 撮影 加藤愛佐子



地域部会便り

名南部会

「大曾根界限散策」と「徳川園見学」

12月13日(土)、師走とはいえポカポカ陽気の中、会員9名が参加し「大曾根界限散策」と「徳川園見学」を楽しみました。大曾根は名古屋城の東方一里(4Km)に位置し瀬戸街道と善光寺街道の分岐点で江戸時代には旅人で賑わった町だそうです。近年、商店街は寂しくなっていますが、町おこしで毎月第二土曜日に朝市が開かれています。当日(第二土曜日)も活気を取り戻した街並みを私達は散策しました。

散策後、イタリア風家庭料理の店(パスタ、スタジオン)にて昼食会を兼ねた意見交換会を開き、情報交換、近況報告など和気藹々と、楽しい忘年会となりました。徳川園は大曾根商店街からは数分の位置にあり、昼食後、全員、のんびりと好天の日本庭園を見学しました。



「安城デンパーク」と「丈山苑」

4月17日(金)、春の暖かい日差しの中、会員7名が参加し「安城デンパーク散策」と「丈山苑見学」の楽しいひとときを過ごしました。安城デンパークは花と緑あふれる癒しの空間であり、ぶらっと園内を一周しました。お昼には皆さんで北欧デンマークの味わいあるランチをいただきながら話に花が咲きました。

引き続き、デンパークから2Km程離れた丈山苑を見学しました。丈山苑は江戸初期の文人、石川丈山が京都の詩泉閣を丈山の生誕地安城へ再現したもので、開放感あふれるお部屋で枯山水庭園を觀賞しながら頂いたお抹茶には心が洗われました。



尾張部会

平成21年度総会及び犬山城下町散策

尾張部会代表 田中芳雄

実施日 平成21年3月25日

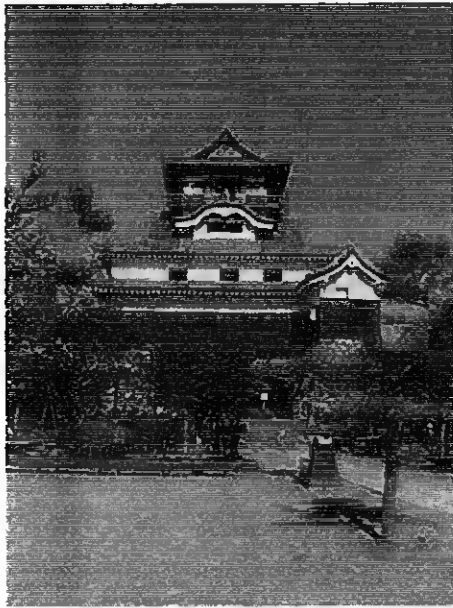
参加者 浅野澄子、小澤節子、松本敏子、井出勝男、長谷川浩子、田中芳雄
森北扶美代、中野絃子、荒川照子

当日は犬山駅で待ち合わせ、今回の企画責任者の浅野、長谷川さんのお骨折りで、築180年の改装古民家「なり多」で、普通では味わえないフレンチ創作料理を、日ごろのご無沙汰につもる話で賑やかにいただきました。

その日は穏やかな薄曇りで、桜も咲き始めでちらほらと、犬山は古くからの城下町ですので、食事後に犬山城まで散策がてら、お店をひやかしながら城まで歩き、城の手前に「文化資料館」「からくり展示館」を見学し、希望者のみ「犬山城」に登り、あとは、自由解散で今年初めての部会を終了し次回会えるのを楽しみに散会しました。

尾張部会は、連絡のはがき代金位なので会費は徴収せず、現在の残金が無くなったなら考える事にし、とにかく責任者が立案し連絡その他、田中代表がすることで、今後の継続を確認しあいました。

他部会の方の参加は、自由ですが、SLA全員に通知も出せませんので、尾張部会の行事の噂をどこかでお聞きください。



犬山城



なり多

投稿

四国八十八箇所のお遍路 井出 勝男

四国八十八箇所のお遍路を歩いて回ろうという思いはいつの頃からか定かではないが、心の中に漠然と宿していた。

1 昨年4 5年間にわたる勤めを終え、また実家を守っていた兄が、6 7歳の若さで逝き、無常を感じ、心に期すべきものができた。かつて、歩き遍路をした友人に話を聞いたり、バスで巡るツアーの初回に参加したりし、着々と準備をした。そして3月下旬、桜の花の咲く頃、京都での集いに参加した後、そのまま四国に渡り、八十八箇所の一箇所、豊山寺で支度を整え出発した。

早速、2~3日目に、心配していた足に豆ができ、また雨にあたり、1 2番の焼山寺では厳しい山登り(遍路ころがしという)が待ち受けていた。完歩できるかなんとも心もとない事態になった。

一日の予定を組むには寺の納経時間がAM 7:00からPM 5:00までなので、昼ごろまで歩いた様子を見て、

その日の行程決め、宿を確保した。なるべく朝早く出発して体力のある午前中が丸ばり、午後には早く宿に着くようにした。風呂と睡眠とで体力の維持に努めた。土佐に入り、室戸岬、足摺岬への長い道のりは大変だった。最長の日は、朝5時半出発、夕方6時まで昼休み小休止を入れ、1 2時間60キロメートル歩いた。結局約30日間で1 200キロメートル歩き、一日平均40キロメートル歩いた。体力には自信が持てた。もともと余り信仰心のあるほうではないので、正直なところ苦しい印象が強かった。しかし、途中暖かい「お接待」に勇気づけられ、美しい自然に魅せられ、いろいろな友人との出会いもすばらしかった。お大師様との「同行二人」の旅は突り多いものになった。

宮川和男さんの思い出 名北部会 加藤 美

2月8日、今泉さんから宮川さんの訃報電話を受けました。ご体調が悪く入院加療中とは聞いていましたが…。びっくりすると同時に大変なショックでした。

宮川さんの細かい気遣い、優しさなどその人柄が目につかびます。平成9年7月、名北部会の「名東老健見学」の朝、星が丘バスターミナルで私が乗り場を探していた時、「加藤さんご苦労様、乗り場はこちらですよ」と大きな声がベンチから聞こえてきました。新入会されて間もない宮川さんと分り、この親切的な気配りに敬服しました。

また、平成11年9月の特養ホーム「愛知たいようの杜」を訪ねたとき、案内された管理棟の集会所が、森の中で若干暗い感じを受けましたが、宮川さんは「こういう場所は却って落ち着きますね。しかし、杜人さん(入居者)たちの居室は、広い中庭を囲んで全体が明るくなるよう工夫されていますね」と冷静な見方をされ、着眼点の違いを感じさせられました。

SLAの組織活動では、平成11年に研修部総括副会長として、翌年からは名北部会代表として“生き生き教室”を部会活動の中で定着させ、活性化を進めてくださいました。

SLA活動のほか、ボランティア活動として子供のおもちゃの修理をされたり、趣味のコーラスに時間を有意義に活用されたりして、シルバーライフの一つの在り方を示されているように思いました。このように、宮川さんからは教わるばかりでした。SLA活性化へ向けて会員が結束を固めつつあるいま、まことに残念に思います。最後になりましたが、宮川さんのご活躍に感謝申し上げ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

※お詫びと訂正2009年カレンダー11,12月撮影場所は正しくは談山神社です